

科目名	教育実践指導論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	田中 曜次	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り		
授業の目的及び概要	3 年次の教育実践指導論と 4 年次の教育実践指導論は一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的心構えを理解し、学校経営、教員の服務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、これまで学んだことをふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧にふり返って総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりと自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の 3 点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあきらかにすることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 30 年	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も労力と集中力を注がねばならないものが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2～3週間後に本学に戻ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択」し、「実践と省察」をくり返す体験をとおして「成長」してきます。生徒は全身で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面での生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間的ふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	①授業予定と概要 ②教育実習の目的と心構え（4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務） ③教育実習にむけて、課題を捉えなおす	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直して、自身の教育実習の達成課題をまとめる。	4時間
第2回	対面	教育実習にむけて各自の課題を発表	授業で指摘された課題を、学習指導と生徒指導に分けて整理する。	4時間
第3回	対面	教育実習に向けて 学習指導案、日誌や記録の書き方を整理する	これまで作成した指導案などについて、指摘された問題点などを整理する。	4時間
第4回	対面	模擬授業の発表 中学校 道徳 特別活動	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った授業計画を改善する。	4時間
第5回	対面	模擬授業 高等学校 特別活動 総合的な学習の時間	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った授業計画を改善する。	4時間
第6回	対面	模擬授業 中学社会科	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った学習指導案を改善する。	4時間
第7回	対面	模擬授業 高等学校 地理歴史科 公民科	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った学習指導案を改善する。	4時間
第8回	対面	教育実習の記録を整理する	教育実習を総括し、成果と課題について文章にまとめる。	4時間
第9回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第10回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第11回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第12回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第13回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第14回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第15回	オンデマンド	①教育実習の成果と課題 ②教育実習をどう生かすか	「教職実践演習」にむけて自身の課題を明確にする。	4時間

科目名	教育実習 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	田中 曜次	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	実習
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育現場での学習指導や生徒児童の実体験の中から、授業の内容や方法、生徒理解や生徒とのかわり方について学ぶ		
授業の目的及び概要	高等学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。 教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育場面で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実的に即して修得する。 ③教育実習と通じて、教職生活を経験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 30 年	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、全て出席すること。 ・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実に即した理解と学修を目指してほしい。 ・実習校の指導にしたがい、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が 		

求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。
・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習：実習校のことについて HP などで確認する。 復習：ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4 時間
第2回	対面	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第3回	対面	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第4回	対面	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第5回	対面	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第6回	対面	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第7回	対面	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第8回	対面	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第9回	対面	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第10回	対面	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第11回	対面	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第12回	対面	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4 時間
第13回	対面	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4 時間
第14回	対面	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4 時間

第15回	オンデマンド	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4時間
------	--------	--	---------------------------------------	-----

科目名	教育実習Ⅱ	開講年度	2024 年度春学期
担当者	田中 曜次	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	実習
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育現場の実体験から、授業の実践や生徒とのかかわり方、教員間の連携などについて学ぶ		
授業の目的及び概要	<p>中学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。</p> <p>教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<p>①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。</p> <p>②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育場面で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実的に即して習得する。</p> <p>③教育実習と通じて、教職生活を経験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	<p>①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 29 年</p> <p>②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 30 年</p>	ISBN	<p>①9784827815795</p> <p>②9784827815672</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	<p>・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、全て出席すること。</p> <p>・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実に即した理解と学修を目指してほしい。</p> <p>・実習校の指導にしたがい、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動</p>		

が要求される。
・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習：実習校のことについて HP などで確認する。 復習：ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4 時間
第2回	対面	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第3回	対面	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第4回	対面	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第5回	対面	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第6回	対面	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第7回	対面	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第8回	対面	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第9回	対面	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第10回	対面	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第11回	対面	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第12回	対面	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4 時間
第13回	対面	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4 時間
第14回	対面	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4 時間
第15回	オンデマンド	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4 時間

	参加の下に、研究授業の振り返りを行う。		
--	---------------------	--	--

科目名	教職実践演習	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教職課程の学修と教師としての資質を磨く。		
授業の目的及び概要	<p>この科目の目的は、教職課程における学修の総仕上げを行うことである。より具体的には、「教職に関する科目」や「教科に関する科目」の履修、教育実習を経て、それまで学修したことへの振り返りや各自の今後の課題・目指すべき方向などの明確化を行う。</p> <p>その際、講義や演習(報告、発表、討論)、ロールプレイなどの様々な形態を組み合わせ教育現場を意識した課題を取り扱う。</p> <p>前半部分(第1回～第8回)では、本演習以前に経験した教育実習などの体験の振り返りと自己の課題の発見など<自己の経験>と、講義や講演から得た知識とを融合させつつ、レポート作成や報告、討論を行う。</p> <p>後半部分(第9回～第14回)においては、教育実習の経験を踏まえて教科の知識と授業実践の結合を図り、教材研究と模擬授業などを行う。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<p>大学で学んだ知識と、教育実習などを通じて得られた経験知との結合を図り、「使命感や責任感に裏打ちされた実践的指導力を持った教員」となっていくための基礎となる資質を身につけている。</p> <p>そうした資質形成の確認を、以下の3点を学修する。</p> <p>①教師としての使命感、責任感、教育的愛情を身につける。</p> <p>②教師としての社会性、対人関係の能力の必要性を理解することができる。</p> <p>③教科の指導力や生徒理解の力などについて具体的に考えることができる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	演習前半部分に課したレポート課題については、演習期間中にコメントや論評を行う。演習後半部分のものについては、演習の中で行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	<p>①『中学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省 東山書房(2020) ISBN-10 : 4827815798 ISBN-13 : 978-4827815795</p> <p>②『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省 東山書房(2018) ISBN-10 : 4827815674 ISBN-13 : 978-4827815672</p> <p>③『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』文部科学省 東洋館出版社(2018) ISBN-10 : 4491034710 ISBN-13 : 978-4491034713</p>	ISBN	<p>①9784827815795</p> <p>②9784827815672</p> <p>③9784491034713</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表(口頭・実技)	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	

	【定期試験】WEB 試験	0
	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	教職課程として最後の仕上げとなる科目であるので、この科目の履修の過程で、本学として教員免許状を取得するにふさわしいか、否かの判断が行われるとよい。この点を、履修者は念頭に置いて履修して欲しい。この科目の単位取得なしでは、教員免許取得申請はできない。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教育実習や学校ボランティア、学校インターンシップなどの体験の総括と振り返りを通じて、自己課題の発見 「ふり返し」と自己課題についてレポートして次回までにまとめる。	事前：「事前レポート」の作成 事後：『事前レポート』の加筆、修正	4時間
第2回	対面	第1回以来の総括と自己課題のレポートに基づいて報告と討論 本演習における今後の自己目標の設定	事後： 「事前レポート」の完成	4時間
第3回	対面	聖職論、労働者論、専門職論などの教師論を概観しつつ、教職の意義と役割について考察し、自己の教師像形成の糧とする。	事後：演習内容をふまえて、「レポート」の作成	4時間
第4回	対面	「私の考える「教師の仕事」としてレポート作成 (第5回目までに完成させ、持参する)	事後： 「レポート」の完成	4時間
第5回	対面	前回は作成したレポートに基づく報告と討論	事後：演習参加者からのコメントと討論の整理と振り返り	4時間
第6回	対面	ゲスト・スピーカーによる講演 学級経営や保護者対応の現状と課題について講演と質疑応答	事前： 学校の保護者対応に関する下調べ 事後： 配付プリントの学習	4時間
第7回	対面	前回の講演を踏まえて具体的な事例研究と討論、ロールプレイ(ゲスト・スピーカーの参加)	事後：学級経営や保護者対応の現状と課題についての整理と振りかえり	4時間
第8回	対面	ゲスト・スピーカーによる講演 学校現場における今日的課題に関する講演と質疑	事前： 学校教育における今日的課題に関する下調べ 事後： 配付プリントの学習	4時間
第9回	対面	教員免許の「地理歴史」分野の知識確認テスト	事前： 「確認テスト」の準備学習 事後： 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4時間
第10回	対面	教員免許の「公民」分野の知識確認テスト	事前： 「確認テスト」の準備学習 事後： 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4時間
第11回	対面	教材研究と授業設計と模擬授業(地理歴史分野)	事前： 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後： 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第12回	対面	教材研究と授業設計と模擬授業(公民分野)	事前： 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後： 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第13回	対面	教材研究と授業設計と模擬授業(中学社会分野)	事前： 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後： 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第14回	対面	全授業を踏まえての、教科指導力に関する総括と振り返り	事後： 本演習を踏まえての教材研究と指導案の修正および自己の課題の確認	4時間

第15回	オンデマンド	教職実践演習を通して確認された、教職として求められる資質の振り返りと自らの課題の確認	事後： 本演習を踏まえての自己の課題の確認と「総まとめレポート」の作成	4時間
------	--------	--	-------------------------------------	-----

科目名	教育方法論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	北川 剛司	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究		
授業の目的及び概要	この科目では、教育科学の立場から提案されてきた主要な学習指導の理論について概説する。また、各理論を背景に開発され実践されてきた教育方法や技術、情報通信技術を活用した教育、情報モラル教育について、受講者が実際に体験したり、意見交換をしながら授業づくりのあり方を検討する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子供たちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究及びカリキュラムデザインの実際を通して学ぶ。 この科目の到達目標は以下の4点である。 1) 教育方法や授業設計・評価に関する基本的な理論や方法を理解している。 2) 教育方法（情報通信技術の活用を含む）に関する基礎的な事項や方法を理解している 3) 指導案の作成や分析を通して実際の授業設計をすることができる。 4) 情報通信技術を効果的に活用した指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	主として各授業の前後の休み時間等を使って、授業への取り組みの様子や達成についてフィードバックを行う予定です。また、必要に応じて、授業中の提出物にコメント記入をし返却を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①中学校学習指導要領解説総則編（平成 29 年告示）， 文部科学省，東山書房，2020 年	ISBN	①9784827815801
参考書	①佐藤学『教育の方法（放送大学叢書）』左右社、2010 年。 ②田中耕治編『よくわかる教育評価 第 3 版』ミネルヴァ、2021 年。	ISBN	①9784903500348 ②9784623091645
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		40
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（％）		0
その他の内容			
この科目の受講にあたって	教職を目指すみなさんは、「よい授業とはどんなものだろう」と考えたことがあると思います。本授業ではこの問いに受講後に各自が答えられるようになることを目指します。よい授業ができるようになると、子どもにとってよいというだけでなく、教師にとってもやりがいや自信につながります。よい授業についての目指すべき方向をまずは理解することが大切です。よい授業についてのイメージを受講者全員で深めていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 社会の変化による現在の教育課題と教育方法 学力論争について理解し、何が問題として指摘されているのかを考える。そして学力を子ども達が身につけていくために何が可能かを教育方法から考える。また学校が社会の求めるものとのかわりでのどのように変遷してきたか、今何が求められているのかという現在の教育課題を理解する。	・事前に平成 29 年度告示 中学校学習指導要領解説（総則編）pp. 1-5 を読んでおくようになしてください。	2 時間
第2回	対面	教育方法の基礎的理論 教授学のキーワード（アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり）を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・第2回授業中に配布する資料「教授学のキーワード（アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり）」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第3回	対面	主体的・対話的で深い学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む） 「教育方法」に関するキーワード（授業規律、授業形態、協同学習、情報機器の活用、など）を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・第3回授業中に配布する資料「「教育方法」に関するキーワード（授業規律、授業形態、協同学習、情報機器の活用、など）」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第4回	対面	個別最適な学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む） 意図的な教育的働きかけである「授業」をデザインする場合、全体および個別の目標設定が重要となる。目標は達成可能な目標なのか、方向を指し示す目標なのか、など、授業の目標設定をどのように考えていくのか、その手続きと方法を学ぶ。また目標の達成を確かめ、目標設定自体をいかに評価するのかについてもあわせて考える。指導案作成2（目標の作成）	・第4回授業中に配布する資料「個別最適な学び」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第5回	対面	生徒の学びを促す授業のデザイン 授業は、教授活動と学習活動が効果的に機能するときその成果を生み出す。そのため、ここでは、学習活動を支援するための考え方を、先行する学習理論を通じて学ぶ。	・第4回授業中に配布する資料「学習理論」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第6回	対面	教育の基礎的な技術、教材、教具、学習環境、情報通信技術 授業は、子ども達の学習スタイルや認知スタイルによって多様な形態をもつ。子どもの学びに可能な限り即した柔軟な授業方法、教材、学習環境、情報機器活用について考える。	・第6回授業後に配布する資料「学習環境、情報通信技術」を必ず授業の後読んで予習をしてください。	4 時間
第7回	対面	学習評価の理論 子ども達の学びをどのように評価するのか？評価に関する基礎を学び、相対評価、絶対評価、個人内評価それぞれの長所と短所を学ぶ。そしてその効果的な連携利用を考える。	・第7回授業中に配布する資料「相対評価、絶対評価、個人内評価」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第8回	対面	学習評価の方法、教育データを活用した指導	・第8回授業中に配布する資料「教育データを活用した指導」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間

第9回	対面	今日の情報通信技術を活用した教育の意義と課題に関する講義をオンライン動画で実施する。(オンライン動画形式であることを活用して、教育実践へのさまざまな情報通信技術の導入の仕方について紹介する。)	・第9回授業中に配布する資料「情報通信技術」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第10回	対面	各教科を横断した情報活用能力と情報リテラシーの育成	・第10回授業中に配布する資料「情報活用能力、情報リテラシー」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第11回	対面	学校における ICT 環境の整備と情報通信技術を活用した校務の推進	・第11回授業中に配布する資料「学校における ICT 環境の整備」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第12回	対面	情報通信技術を活用した教育方法、特別の支援を必要とする生徒への活用	・第12回授業中に配布する資料「情報通信技術と特別支援教育」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第13回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想①(情報通信機器の活用)	・第13回授業中に配布する資料「情報通信機器の活用①」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第14回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想②(学習指導案の作成)	・第14回授業中に配布する資料「情報通信機器の活用②」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第15回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想③(模擬授業の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・第15回授業中に配布する資料「情報通信機器の活用③」を必ず授業の後読んで復習をしてください。 ・教育課程の近年の定義と指導案の対応について説明できるようにしてください。 ・教育評価の基本的な考え方としてのパフォーマンス評価、ルーブリックについて説明できるようにしてください。 ・情報通信機器の授業への活用について説明できるようにしてください。 	6時間

科目名	教育方法論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	中村 哲也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究		
授業の目的及び概要	この科目では、教育科学の立場から提案された主要な学習指導の理論について概説する。また、各理論を背景に開発され実践されてきた教育方法や技術、情報通信技術を活用した教育、情報モラル教育について、受講者が実際に体験したり、意見交換をしながら授業づくりのあり方を検討する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<p>教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子供たちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究及びカリキュラムデザインの実際を通して学ぶ。</p> <p>この科目の到達目標は以下の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育方法や授業設計・評価に関する基本的な理論や方法を理解している。 2) 教育方法（情報通信技術の活用を含む）に関する基礎的な事項や方法を理解している 3) 指導案の作成や分析を通して実際の授業設計をすることができる。 4) 情報通信技術を効果的に活用した指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各自が調べた内容を授業において発表する。その内容について学生の相互評価、および教員からのその都度評価を行う。 作成したレポートや指導案などは授業内で取り上げ、評価及び改善点を示します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック」、大島 純 千代西尾 祐司、北大路書房、2019 年 *テキストの内容を各自がまとめて他のメンバーに伝えたり、全体で内容を共有してディスカッションするなどの際に使用します。テキストがないと学習がすすめられませんので、必ず購入してください。	ISBN	①9784762830808
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		5
	成果発表（口頭・実技）		10
	中間試験		80
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0

	【定期試験】WEB 試験	0
	その他 (%)	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	他の学生と協同で学ぶ機会が多くなる。欠席があると他のメンバーの学習に支障をきたす場合があるので、基本的には全授業の出席を求める。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 社会の変化による現在の教育課題と教育方法	予習：今までの授業を振り返り、どのような教え方があり、どのような教え方が効果的だったかについて考えておく（120分） 復習：授業で紹介した教育方法について、今までの授業を振り返り、その関連性について考えておく（120分）	4時間
第2回	対面	教育方法の基礎的理論	予習：学習指導要領の解説をもとに学習指導要領改訂についての内容について理解する。（120分） 復習：それぞれが分担した学習内容項目について、文献等で調べる。（240分）	6時間
第3回	対面	主体的・対話的で深い学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第4回	対面	個別最適な学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第5回	対面	生徒の学びを促す授業のデザイン	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第6回	対面	教育の基礎的な技術、教材、教具、学習環境、情報通信技術	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第7回	対面	学習評価の理論	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第8回	対面	学習評価の方法、教育データを活用した指導	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第9回	対面	今日の情報通信技術を活用した教育の意義と課題	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第10回	対面	各教科を横断した情報活用能力と情報リテラシーの育成	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第11回	対面	学校における ICT 環境の整備と情報通信技術を活用した校務の推進	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第12回	対面	情報通信技術を活用した教育方法、特別の支援を必要とする生徒への活用	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第13回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想①（情報通信機器の活用）	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第14回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想②（指導事例等）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（120分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	4時間

第15回	オンデマンド	情報通信機器を活用した授業の構想③(指導案等作成)	予習：今までの学習を振り返り、自分なりの言葉で説明できるようにする(120分) 復習：教育方法に関する学習内容に関しての自分の学習に関して理解が不十分だった点などについてまとめる(120分)	4時間
------	--------	---------------------------	--	-----

科目名	社会科教育法	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	社会科授業のための学習指導理論と方法と実践		
授業の目的及び概要	社会科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における社会科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、社会科の意義、学習指導要領における社会科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1、学習指導要領における社会科の目標、内容ならびに社会科の指導や授業に関する基本的事項と理論を理解する。 2、社会科の学習指導理論を理解するとともに、実際の社会科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 3、社会科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	さまざまな報告やプレゼンテーション、模擬授業そしてレポートに対する教授する側からと、学生相互の対話によるコメントをおこなう。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	『中学校学習指導要領〈平成 29 年告示〉解説 社会編』 文部科学省、東洋館出版社、平成 29 年	ISBN	9784491034713
参考書	授業時に紹介する	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	30	
	その他の内容	学習指導案	
この科目の受講にあたって	教員になるということの大変さを肌で実感し理解してもらえれば万全です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	社会科を学ぶ社会的・教育的意義	学生が社会科の教職への途を選んだ理由について討	2 時間

			論を行い、討論の経過・内容・結論などの点を事後学修としてまとめ、次回講義で提出します。	
第2回	対面	学校教育における社会科、教育課程における社会科	社会科とその他の教科との関連性、学校教育における社会科の位置付けについて、授業内で使用した学習指導要領の記述を参照してまとめるようにします。	4時間
第3回	対面	学習指導要領における社会科の学習指導	講義で学生とともに学習指導要領の記載事項を分析・整理し、それらを再度自分なりにまとめるようにします。かなりの時間を要しますが、教職の途には欠かせない作業です。	6時間
第4回	対面	学習指導要領と社会科各分野の学習指導	学習指導要領の検討を経て授業内で把握した諸事項を改めて文書化する作業です。	4時間
第5回	対面	社会科の学習指導理論と授業	模擬授業の年間計画と進め方の詳細を発表し、学生が個々に単元テーマを選択し、そのテーマを選んだ意図や考え方を文書化する作業を行います。	6時間
第6回	対面	社会科授業の構想と計画・立案	資料として示した学校の年間計画のひな型により、どの単元がどこに配置されるのかを把握し、この事例を参照して自分なりのプランを作成します。	4時間
第7回	対面	社会科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	配布した幾つかの学習指導案を参照した上で、自分の指導案を作成します(2週間程度の時間が必要になります)。	6時間
第8回	対面	学習指導案と教材研究	自分が行う模擬授業の教材を集め、授業の基本構想に沿った講義ノートを作成します。	4時間
第9回	対面	教材研究の方法	講義時に示した幾つかの事例を基礎として、教科書以外の教材にはどのようなものがあるのかを調べてみます。	4時間
第10回	対面	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	授業で見た教育実習の映像について、感想と批評をまとめます。	4時間
第11回	対面	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	これから実践する模擬授業についての方法論、主要な論点などを自分なりに整理する作業をおこないます。	4時間
第12回	対面	授業の方法と実際と評価 模擬授業の方法や振り返りについて説明	模擬授業を参加者全員で評価するシステムにより、授業を行う際の注意点を自分なりに検討しまとめておきます。	4時間
第13回	対面	授業の実践例(地理的分野)① 地理的分野を学ぶ意義	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	4時間
第14回	対面	授業の実践例(地理的分野)② 世界と日本の地域構成	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	4時間
第15回	対面	授業の実践例(地理的分野)③ 世界の諸地域と生活と環境	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	4時間
第16回	対面	授業の実践例(地理的分野)④ 日本の諸地域と地域調査の方法	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	4時間
第17回	対面	授業の実践例(地理的分野)⑤ 「地理」授業の小括	地理の授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第18回	対面	授業の実践例(歴史的分野)① 歴史的分野を学ぶ意義	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第19回	対面	授業の実践例(歴史的分野)② 歴史の見方、捉え方、時代区分	歴史の模擬授業を行った学生の感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第20回	対面	授業の実践例(歴史的分野)③ 近世までの日本とアジア	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します	4時間

			(2週間程度)。	
第21回	対面	授業の実践例(歴史的分野)④ 近現代の日本と世界	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第22回	対面	授業の実践例(歴史的分野)⑤ 「歴史」授業の小括	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第23回	対面	授業の実践例(公民的分野)① 現代社会と文化の諸特徴	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第24回	対面	授業の実践例(公民的分野)② 市場と経済及び国民生活と政府の役割	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第25回	対面	授業の実践例(公民的分野)③ 人権尊重と憲法及び民主政治と政治参加	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第26回	対面	授業の実践例(公民的分野)④ 世界平和と人類の福祉及び国際社会の課題	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第27回	対面	授業の実践例(公民的分野)⑤ 「公民」授業の小括	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第28回	対面	社会科における発展的な学習内容	担当者が模範となる授業を行い、教科指導の進め方、教材の有効な使用法、各分野にまたがる基礎的な教養の発現などを示し、学生が自らの意見、感想、批評などをまとめるようにします(2時間程度)。	6時間
第29回	オンデマンド	発展的な学習内容とその指導	学生がこの一年間に受講した総括を文章化しまとめます。	4時間
第30回	オンデマンド	社会科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上	前回の課題を持ち寄り、全員で討議し、一年間の振り返りを行います。学生はこの授業を受けて自分自身の何が変わったかをまとめるようにします。	4時間

科目名	社会・地理歴史科教育法	開講年度	2024年度春学期、2024年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	地理歴史科の教育的意義と指導理論・方法を学び、実践的な授業手法を身につける。		
授業の目的及び概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養することを目的とする。 ・本講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、学習内容をより発展させる方向性について考える。 ・なお、本講義では第1～15回を地理教育分野、第16～30回を歴史教育分野に学修内容を分けて進めるものとする。 		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<p>ここでは、以下の3点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。 ②地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 ③地理歴史科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業などで提出する振り返りシート(またはアンケートフォーム)に対して教員がコメントを付して返却する。 2. 学生が提出した課題(レポート、指導案、教材など)について、教員がコメントを付して返却する。 3. 模擬授業では教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。 		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編, 文部科学省, 東洋館出版社, 2019年	ISBN	9784491036410
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①高等学校学習指導要領(平成30年告示), 文部科学省, 東山書房, 2018年 ②中学校学習指導要領(平成29年告示), 文部科学省, 東山書房, 2017年 ③中学校学習指導要領(平成29年)解説 社会編, 文部科学省, 東洋館出版社, 2018年 ④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 東洋館出版社, 2021年 	ISBN	<ol style="list-style-type: none"> ①9784827815672 ②9784827815795 ③9784491034713 ④9784491047010
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表(口頭・実技)		20
	中間試験		0

	【定期試験】レポート試験	20
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	【定期試験】WEB 試験	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>・本授業では、PBL やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを通じて、地理歴史科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。</p> <p>・授業中の発言を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。</p> <p>・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	地理教育の意義と課題① ▷ 日本の地理教育における歩み、「地理総合」必修化にいたる経緯と背景	事前 本講義のシラバスを熟読し、授業内容について予習を行ってくること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第2回	対面	地理教育の意義と課題② ▷ 学習指導要領および教科書における地理教育の特徴 ▷ 地理総合と地理探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第3回	対面	日本と諸外国の地理教育 ▷ 地理教育における日本と諸外国との比較 ▷ 異文化理解	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第4回	対面	地理教材の活用法①（地理的スキル①） ▷ 地誌学習の意義と役割 ▷ GIS システムなど ICT を活用した地誌学習（日本）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第5回	対面	地理教材の活用法②（地理的スキル②） ▷ 学習内容に応じた教材選定のポイント ▷ GIS システムなど ICT を活用した地理学習（主題学習、動態地誌）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第6回	対面	地理教育における様々な評価方法 ▷ 観点別評価と評価規準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後	4時間

			授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	
第7回	対面	統計調査や野外調査の分析と考察(地理的スキル③) ▷ 地理各種統計調査や野外調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第8回	対面	授業の計画と学習指導案作成①(地理総合) ▷ 単元構想と学習内容の位置づけ ▷ 指導案作成のポイント	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第9回	対面	授業の計画と学習指導案作成②(地理総合) ▷ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。作成した学習指導案を発表できるように準備してくること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第10回	対面	授業実践①(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ GISシステムなどICTを活用した模擬授業の実践(地理総合)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第11回	対面	授業実践②(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 統計調査を活用した模擬授業の実践(地理探究)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第12回	対面	ハザードマップの作成と防災教育(地理的スキル④) ▷ 重ねるハザードマップの活用例	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第13回	対面	授業実践③(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 日本地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第14回	対面	授業実践④(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 世界地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに	4時間

			復習を行ってくることを。	
第15回	オンデマンド	地理教育における授業の総括(オンデマンド授業) ▶ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 これまでの授業内容について総復習を行っておくこと。 事後 理解が不十分だったところや要点などをノートにまとめておくこと。	4時間
第16回	対面	歴史教育の意義と課題① ▶ 日本の歴史教育における歩み、「歴史総合」必修化にいたる経緯と背景	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4時間
第17回	対面	歴史教育の意義と課題② ▶ 学習指導要領および教科書における歴史教育の特徴 ▶ 歴史総合と世界史探究、日本史探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4時間
第18回	対面	日本と諸外国の歴史教育 ▶ 歴史教育における日本と諸外国との比較 ▶ 異文化理解	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4時間
第19回	対面	歴史教材の活用法①(歴史的スキル①) ▶ 様々な写真や図を活用した歴史学習(日本)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4時間
第20回	対面	歴史教材の活用法②(歴史的スキル②) ▶ 様々な写真や図を活用した歴史学習(海外)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4時間
第21回	対面	歴史教育における様々な評価方法 ▶ 観点別評価と評価規準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4時間
第22回	対面	文献および各種調査、客観的データの分析と考察(歴史的スキル③) ▶ 歴史的資料や各種調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4時間
第23回	対面	授業の計画と学習指導案作成①(歴史総	事前	4時間

		合) ▷ 単元構想と学習内容の位置づけ ▷ 指導案作成のポイント	前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	
第24回	対面	授業の計画と学習指導案作成②（歴史総合） ▷ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第25回	対面	授業実践①（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（歴史総合）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第26回	対面	授業実践②（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第27回	対面	授業実践③（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第28回	対面	授業実践④（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ ビジュアル教材を活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第29回	対面	授業実践⑤（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ フィールドワークを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第30回	オンデマンド	歴史教育における授業の総括（オンデマンド授業） ▷ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 授業で取り上げた基本的事項について一通り復習を行ってこること。 事後 本授業で出されたプリントなどを中心に復習を行っておくこと。	4時間

科目名	社会・公民科教育法	開講年度	2024年度春学期、2024年度秋学期
担当者	手取 義宏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	社会科・公民科の基礎理論と授業づくり		
授業の目的及び概要	今それぞれがいる場所でよりよい社会・コミュニティをつくることのできる人間を育てるには私たちはどのような教育を行う必要があるだろうか。その問いに社会科・公民科の教員という立場からビジョンを持って実践に取り組み、試行錯誤しつつ具体化できるような力量を身につけることを目指して、社会科・公民科の基礎理論と授業づくりの学びを開始する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会科・公民科の授業を構想・計画し、実践できるようになるために必要な基礎的力量を身につけることを目標とする。具体的には、 1. 社会科・公民科授業の基礎的な理論を理解すること、 2. 社会科・公民科授業についての視野を広げ、多様な教授方法や活動とコミュニケーションの組織の方法について知ること、 3. 社会科・公民科の授業デザインの理論と方法を身につけ、学習指導案が作成できること、 4. 模擬授業の実践と批評を通して授業実践力の基礎を身につけること、 が到達目標である。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回コミュニケーションカードを提出してもらい、講義内でその質問や意見などを取り上げてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省平成30年）	ISBN	4487286336
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		40
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB試験		0
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	この授業を通して、社会科・公民科についてのイメージを拡張し、より豊かな授業の可能性を認識してもらいたい。また授業への参加の仕方が、現実の社会への参加の仕方とつながっていることに気づいてほしい。そのために、できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていききたい。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式			学修時間
第1回	対面	社会科・公民科の意義と教師の役割	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第2回	対面	社会科・公民科授業の構成要素	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第3回	対面	社会科・公民科の目標	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第4回	対面	社会科・公民科の内容とカリキュラム	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第5回	対面	社会科・公民科の教授方法	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第6回	対面	社会科・公民科の評価	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第7回	対面	社会科・公民科における授業デザイン論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第8回	対面	社会科・公民科における発問と問いの理論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第9回	対面	社会科・公民科における教材論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第10回	対面	社会科・公民科におけるファシリテーション	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第11回	対面	社会科・公民科における対話	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第12回	オンデマンド	復習：社会科・公民科の授業づくりのポイント	映像を視聴してワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第13回	対面	授業の実践例（公共）① 「公共」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第14回	対面	授業の実践例（公共）② 公共的空間における人間の在り方	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第15回	対面	授業の実践例（公共）③ 自立的主体の国家・社会への参画と他者との協働	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第16回	対面	授業の実践例（公共）④ 持続的な社会づくりのための主体	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第17回	対面	授業の実践例（公共）⑤ 「公共」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第18回	対面	授業の実践例（倫理）① 「倫理」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第19回	対面	授業の実践例（倫理）② 人間としての生き方と倫理観・世界観	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第20回	対面	授業の実践例（倫理）③ 国際社会に生きることの自覚	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第21回	対面	授業の実践例（倫理）④ 現代の諸課題と倫理	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第22回	対面	授業の実践例（倫理）⑤ 「倫理」授業の	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大ま	4時間

		小括	かな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	
第23回	対面	授業の実践例（政治・経済）① 「政治・経済」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第24回	対面	授業の実践例（政治・経済）② 民主政治のしくみと主権者の政治参加	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第25回	対面	授業の実践例（政治・経済）③ 現代日本の政治と経済の課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第26回	対面	授業の実践例（政治・経済）④ 国際社会の諸課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第27回	対面	授業の実践例（政治・経済）⑤ 「政治・経済」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第28回	対面	公民科における発展的な学習内容 社会参加のデザイン	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第29回	オンデマンド	発展的な学習内容とその指導 探究と PBL	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第30回	対面	講義のふりかえり	講義を通して学んだことをふりかえり、教育実習・教員採用試験・および新任教師として教壇に立つための課題を整理します。	4時間

科目名	教育原理	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想		
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業についての質問やコメントについては、翌週の授業にて補足説明などを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	<p>①『中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2020)</p> <p>②『高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2018)</p> <p>③『考えを深めるための教育原理』佐藤光友、奥野浩之 編 ミネルヴァ書房(2020)</p> <p>④『よくわかる 教育原理』汐見稔幸 他 編 ミネルヴァ書房(2011)</p>	ISBN	<p>①9784827815795</p> <p>②9784827815672</p> <p>③9784623088065</p> <p>④9784623059263</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	

	【定期試験】WEB 試験	0
	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、“能動的な”「学修」を求める。 なお、授業に際しては出席を重視しますが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席をしないよう心がけることが大事である。 定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。ノート作りについては、授業内で助言します。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前： ウェブページの検索（検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	オンデマンド	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	オンデマンド	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	オンデマンド	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	オンデマンド	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前： ウェブページの検索（検索ワード「イニシエーション」、「通過儀礼」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	オンデマンド	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第7回	オンデマンド	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	オンデマンド	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	オンデマンド	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	オンデマンド	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	オンデマンド	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	オンデマンド	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	オンデマンド	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前： ウェブページの検索（検索ワード「文字の発明」、「文字の歴史」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第14回	オンデマンド	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	オンデマンド	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第16回	オンデマンド	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第17回	オンデマンド	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第18回	オンデマンド	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第19回	オンデマンド	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第20回	オンデマンド	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度（学校の制度化）の出現	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第21回	オンデマンド	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第22回	オンデマンド	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第23回	オンデマンド	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第24回	オンデマンド	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第25回	オンデマンド	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第26回	オンデマンド	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第27回	オンデマンド	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第28回	オンデマンド	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前： ウェブページの検索（検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第29回	オンデマンド	日本の公教育の今日的課題	事前： ウェブページの検索（検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第30回	オンデマンド	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前： ウェブページの検索（検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間